

肢体不自由教育について

徳島県立ひのみね支援学校

本日の予定

- ひのみね支援学校について
- 肢体不自由について
- 障がい特性による困難さに対する指導の工夫及び配慮の例

ひのみね支援学校について



徳島県立 ひのみね支援学校

- ・主障害が肢体不自由の児童生徒
- ・全校児童生徒 52名

65%

自宅

- ・自宅訪問生含む

受診・リハビリ
放課後デイ

35%

徳島赤十字 ひのみね総合療育センター

- ・医療型障害児入所施設
- ・短期入所事業
- ・外来診療
(整形外科、小児科、神経小児科、内科、精神科、歯科)
- ・外来リハビリテーション
(理学・言語・作業療法)
- ・児童発達支援センターひのみね
(放課後等デイサービス等)

連携

児童生徒の通学状況

	通学生		訪問生		計
	自宅生	センター生	自宅生	センター生	
小学部	16	5	4	3	28
中学部	8	3		1	12
高等部	9	2		1	12
計	33	10	4	5	52

本校の教育課程

I 類型	小学校・中学校・高等学校の各教科を中心とした教育課程
II 類型	知的障がい特別支援学校の各教科を中心とした教育課程
III 類型	自立活動を主として指導する教育課程
IV 類型	訪問教育における教育課程 (病棟訪問、在宅訪問)

児童生徒の状況 (教育課程の類型別)

重度・重複化

- I 類型 : 4名
(小学部 1名 中学部 1名 高等部 2名)
- II 類型 : 7名
(小学部 3名 中学部 4名 高等部 0名)
- III 類型 : 32名
(小学部 17名 中学部 6名 高等部 9名)
- 訪問学級 : 9名
IV 類型 (小学部 7名 中学部 1名 高等部 1名)

肢体不自由について

●運動障害の発症原因別にみると

- 1 脳性疾患・・・脳性まひ
- 2 筋原性疾患・・・筋ジストロフィー
- 3 脊椎脊髄疾患・・・二分脊椎, 脊椎側弯症
- 4 骨関節疾患・・・ペルテス氏病, 形成不全
- 5 骨系統疾患
- 6 代謝性疾患

脳性まひの定義

- 発達上にある胎児または乳児の脳に起こった **非進行性**の障がいに起因した一群の診断名
- **生涯にわたり残存する姿勢と運動の発達障がい** →活動の参加の制約
- 感覚、知覚、認知、コミュニケーション、行動などの機能障害やけいれん、二次的な骨格筋障がい、…**重複障がいをもつ**
(2006 アメリカ脳性麻痺・発達医学会)

脳性まひの分類

- 痙直型
- 低緊張型
- アトーゼ型
- 失調型
- 混合型



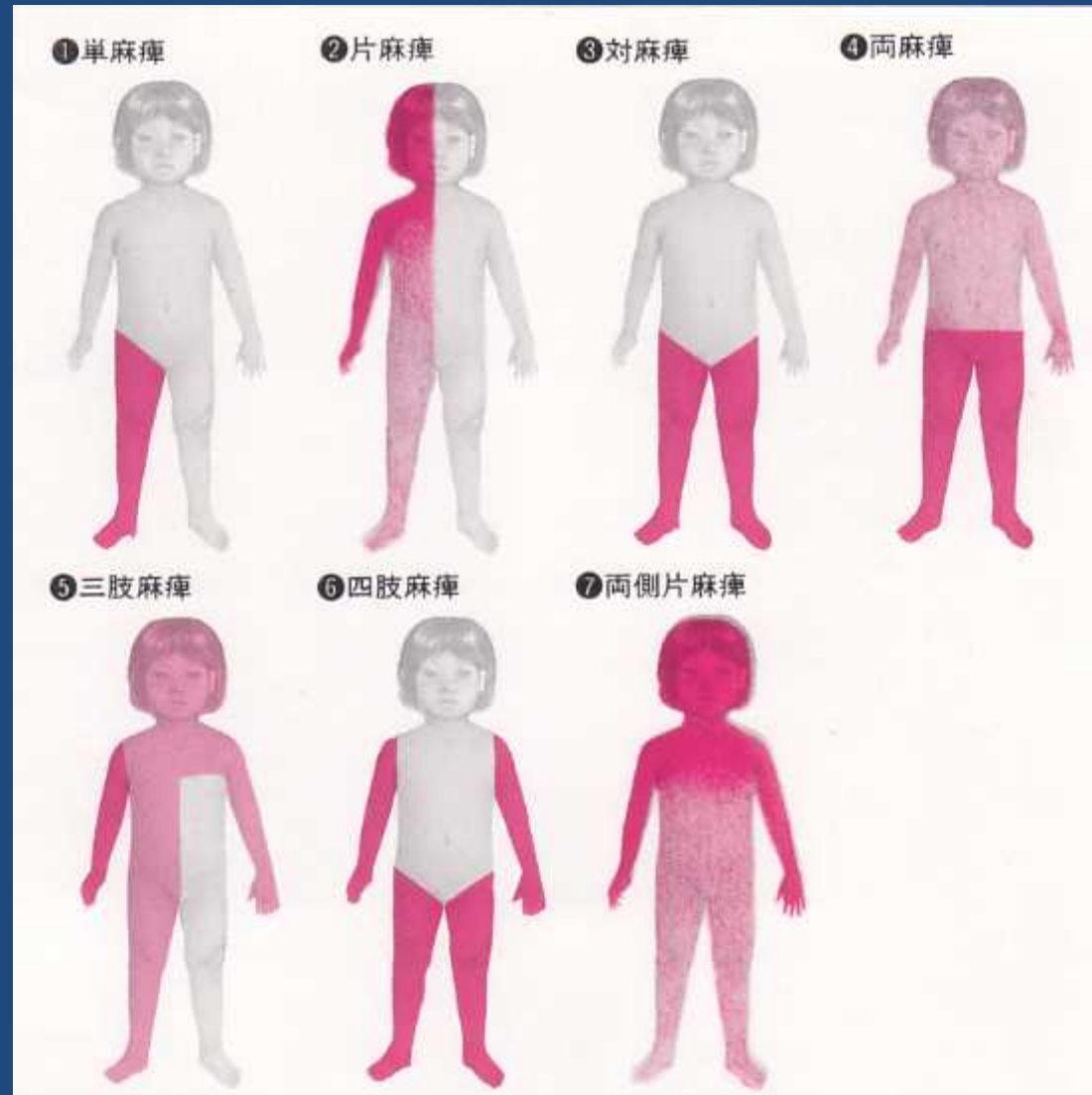
痙直型

- ・筋の伸展反射が異常に亢進し、身体がつっぱり円滑な運動ができない。

アトーゼ型

- ・四肢が意のままにならず、不随意運動を呈する型

麻痺による分類



合併症

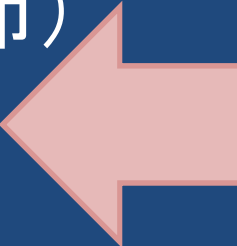
運動障害以外に・・・

- てんかん
- 精神発達遅滞
- 視覚や聴覚の感覚障害
- 認知障害
- 摂食障害
- 膀胱障害

二次障害（身体）

● 幼児期、学齡期、思春期と成長するにつれて、筋緊張や不随意運動が強まる

- 変形・拘縮や脱臼
- 関節障害（股関節）
- 頸椎症
- 脊柱側弯

- 
- ・周囲の環境に適応しようと過剰な努力
 - ・身長や体重の増加
 - ・精神的な圧力

二次障害

- 集中力の持続性の低下
- 自己表現や自信、自尊心の低下
- うつ

(肢体不自由教育 No.220)



社会性を育てる
教育、治療、訓練

肢体不自由の障がい特性

①動作の困難さなどがもたらす難しさ

②感覚や認知がもたらす難しさ

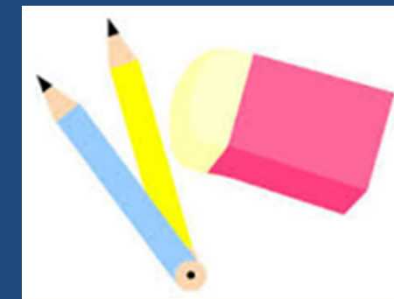
③経験や体験の不足がもたらす難しさ

①動作の困難さなどがもたらす難しさ

対応

- ・学習に取り組むための環境を整える
- ・取組に時間を要することを前提とした学習の計画をたてる
- ・動作を精選する、代替する

上肢機能と配慮



- 文字を書くことが難しい
 - ・机やいす・作業台の工夫
 - ・用具(ノート, えんぴつ等)の工夫
 - ・ワークシートの利用
 - ・デジカメやICレコーダー等の代替機器の活用
 - ・代筆
- 時間がかかる
 - ・目標の重点化, 内容の精選
 - ・作業方法や道具・補助具の工夫

下肢機能と配慮

- 活動場所の制約

 - 遠隔コミュニケーション手段の活用
 - 活動場所の配慮

- 移動、運動等の制限

 - 個に応じたルールや課題の設定

体幹保持と配慮

不安定な姿勢



見えにくい
集中しにくい
活動しにくい

- ・安定した姿勢保持の支援
（自立活動）
- ・机やいすなどの体にあつた物の使用
- ・関係機関との連携

補助的手段の活用と姿勢保持について

●補助的手段

- ① 座位姿勢の安定のためのいす
- ② 作業能力向上のための机
- ③ 歩行器・車いす
- ④ 廊下や階段に取り付けられた手すり
- ⑤ 持ちやすいように工夫したスプーンや鉛筆

補助的手段①



座位保持椅子



工夫した児童椅子

補助的手段②

カットアウトテーブル



滑り止めシート付き椅子

車いすに乗ったお子さんが、机に体を近づけられるように、テーブルがカットされています。机に肘をついて、姿勢を支えられます。

縁が囲まれているため、机上有る物が落ちにくくなります。

テーブルの角度を調節できる物もあります。

③歩行の支援

●状態によって

- ・長下肢装具
- ・短下肢装具
- ・歩行器や松葉づえ
- ・車いす
- ・電動車いす

装具使用の際は、
圧迫した後がないか
確認する

* 車いすの操作ができる

→将来車いす用の自動車免許を取得するなど
自立に向けての積極的な移動方法になる

ムスタング



SRCウォーカー



PCW



ファシリテーションボール



長方形の台



立位板



補助的手段④



トイレの手すり



階段や廊下の手すり

補助的手段⑤

ばねばさみ



電動ばさみ



鉛筆グリップ



鉛筆ホルダー



すべりどめ



改良食器



使いやすい工夫



シリコンスプーン



改良スプーン

肘つき椅子

いすに座った際に、横にひじ置きがあるため、姿勢が崩れにくくなります。
姿勢保持に気をとられることが少なくなり、授業に集中することができます。





らくちゃん



改良椅子

② 感覚や認知がもたらす難しさ

対応

- ・見取る情報量の調整や形態や色の工夫、言語化、具体物操作
- ・全体像の継次的な言語化、情報提示の順序化

視知覚の困難さ

- 斜視や眼振、視神経萎縮などの視機能の問題

ex.脳室周囲白質軟化症

- 位置関係や空間の把握，紙面などへの再構成などの視覚認知の問題

視覚認知と配慮

- ・文字識別の困難さや行飛ばしが見られる。
- ・位置や形をとらえづらく、文字を書きにくい。



拡大する, 色をつける

○ゴシック ×明朝

たて・横などの運動の方向を言語化し、
視覚情報を聴覚情報に置き換える。



書見台

背景をシンプルに
コントラストをはっきりと

国語における困難さと配慮 (みえにくさ・とらえにくさ)

- 書く

- 文字欠け, へんとつくりが逆
- 似た漢字と区別ができない
- 板書を正確に写せない



- 音や言葉がけなど聴覚情報を提示
- 筆順の重視
- ひとつの漢字を部分に分ける

・読む

- ・読んでいる場所を見失う, 文字・行飛ばす
- ・音読はできても, 内容の理解は難しい



- ・拡大、横書き縦書きの選択、起点の明示、分割提示、文字に線を入れる
- ・内容が整理しやすいプリントや図

算数における困難に対する配慮

●筆算がずれてしまう

- ・筆算用紙にマス目を入れる、数字と数字の間に縦の線を入れて書く場所を分かりやすくする

●角度を見ても大きさが分からない

- ・色を分けて2つを重ねて比較する

●図形が書けない

- ・形を実感する(パズル・型紙の利用)

構音の困難さと配慮

- 意見が伝わりにくい
パソコンやトーキングエイド等、代替手段の活用
- リコーダー等が難しい。
呼吸のコントロールが必要な楽器が適さないときは他の楽器で代替する。
使いやすい楽器の工夫

③経験や体験の不足がもたらす難しさ

- ・興味関心の幅がせまい
- ・受け身, 自信をもちにくい
- ・具体的操作や経験の機会を多くもつ
- ・見通しをもって学習に取り組める工夫
(自分一人で出来る経験をもつ)

子どもの経験する機会を奪わない

困り感に寄り添う支援のポイント

- 適切な実態把握
- 個別の指導計画（保護者とともに）
- 授業内容の精選
- ちょっとがんばれば出来る活動
- 活動に対しての十分な評価



がんばることが出来る大人へ



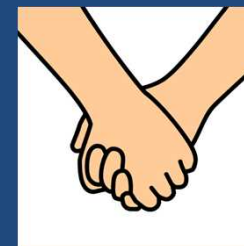
実態把握をするには



一人の目より
複数の目で

- 主治医の意見を伺う機会を積極的に
- 本校の実態把握表（自立活動の区分を活用）
- 見え方については、くわしくは視覚支援学校の巡回相談を活用する（見え方チェックリストなど）
- 体や手の動きなどは、ひのみね総合療育センターのリハビリ見学（訓練に通っている場合）などで情報収集する
- 本人の願いや保護者の願いを把握する

連携の大切さ



□ 保護者との連携

- 保護者の気持ちを共感的に理解できる関係づくり
- 子どもの成長を実感してもらうための工夫

□ 医療との連携

- かかりつけの医療機関からの情報収集
(保護者の同意を得ながら)

□ 校内での連携

- 子どもの実態や対応についての共通理解
- 子どもや担任を支える校内での協力

□ 関係機関との連携

- 現在の生活や進路を考慮した関係機関からの情報収集

個別の教育支援計画の作成・活用

参考

- 国立特別支援教育総合研究所HP
- 高松養護学校HP
- 香川県教育委員会HP「ICT教材等データベース」
- Kintaのブログ

参考文献

- ・肢体不自由教育ハンドブック
- ・二分脊椎(症)の手引き
- ・病気の子どものガイドブック
- ・障害児の療育ハンドブック
- ・本校研修会資料「介助の基本」
- ・高松養護学校HP「肢体不自由ハンドブック」
- ・特別支援教育の基礎・基本
- ・「脳性麻痺の原因・症状・治療」(肢体不自由教育No.220)
- ・「わかる」授業のための手立て
- ・授業のユニバーサルデザイン研究会資料